

教育目標(めざす児童生徒像)

今年度の指導の重点

豊かな心を持ち、自ら学び、実践力のある子どもを育てる。  
 とともに学ぶ子      認め合う子      たくましい子

基礎・基本の徹底と思考力・判断力・表現力の育成を図り、ともに学ぶ喜びと達成感を味わわせる指導に努める。  
 豊かな人間性を育み、互いの人権を大切に、誰とでも仲良くできる子どもの育成に努める。  
 心と身体のたくましさを持った子どもの育成に努める。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国  
 国語では、主としてA「知識」に関する問題の正答率は県平均よりかなり高い。  
 国語では、主としてB「活用」に関する問題の正答率は県平均と同程度であるが、条件や目的に応じて書く問題に課題がある。  
 算数では、A「知識」、B「活用」ともに正答率は県平均より高い。  
 算数では、数と計算、数量関係領域は県平均より高いが、量と測定領域に課題がある。

県  
 国語、社会の正答率は、県平均よりかなり高く、算数、理科も、県平均より高い。  
 算数では、数量関係、量と測定領域は県平均より高いが、図形領域に課題がある。  
 理科では、水溶液の性質・電気の利用の問題は、県平均より高いが、振り子の運動・人体のつくりと働きの問題に課題がある。

【学習状況調査の結果】

テレビ・ゲームの視聴時間は、県平均より短い。  
 家庭学習は、学校の宿題は県平均を上回ってできているが、できていない児童もいる。復習・予習の時間は、児童により個人差が見られる。  
 読書の時間は、昨年同様に県平均をかなり上回っており、読書好きの児童が多い。  
 挨拶は、地域の人に対する挨拶が県平均に比べてやや低い。  
 自分の考えを書いたり、説明したりすることを難しいと感じている割合は県平均より高い。  
 一人ひとりの考えや性格の違いを大切にしようとする意識は県の平均より高い。  
 「あの人のようになりたい」と思う目標にしている人がいると答えた児童が県平均より多い。

成果と課題

課題に対応した改善方法

漢字や計算については、学校や家庭での繰り返し学習でかなり定着している。  
 親子ふれあい読書の取り組みで読書の習慣が着いている。  
 国語は、言語についての知識・理解の定着率は高いが、条件や目的に応じて自分の考えを書いて説明することを難しいと感じている児童が多い。  
 理科は、定着が不十分な学習内容がある。  
 社会は、好きな児童の割合が高く、基礎・活用問題ともできているが、日本の国土の一層の定着が課題である。  
 算数は、少人数指導により基礎的・基本的な学習内容の定着が増している。  
 自分から進んで挨拶することは、指導の継続が必要である。

学期ごとの漢字力テスト・計算力テストや朝学習・家庭学習などを活用し、漢字・計算のさらなる定着を図る。  
 文章の量や条件を指定して、自分の考えを書いてまとめる活動を、様々な教科で取り入れる。  
 問題解決型の授業展開を工夫し、自分の考えを説明したり、友達の発言をつなげて説明する場づくりをし、授業研究を通して充実を図る。  
 4教科の学習到達度確認テストを計画的に活用し、特に活用問題は重点的に扱う。  
 挨拶・返事を生徒指導の重点とし、家庭や地域と連携して実践的に取り組む。

取組の検証方法及び検証時期

達成目標(数値目標)

発表や書くことに関するがんばりの児童アンケートを期日を決めて実施する。(学期ごと)  
 宿題調べを毎日行い、月ごとに評価し、個別指導を中心に取り組む。(月ごと)  
 学習到達度確認テストの実施日を計画し、確実に実施する。(学期ごと)  
 漢字と計算の定着を確認するテストを作成し実施する。(学期ごと)  
 挨拶・返事について児童アンケートを期日を決めて実施する。(学期ごと)

自分の考えを書いたり説明したりすることを難しいとする児童を少なくし、県平均を上回る。  
 家庭学習をする児童を100%に近づける。  
 全学年、学習到達度確認テストを完全に実施する。  
 漢字の書き取り定着率を80%、計算定着率を90%を目指す。  
 挨拶ができる割合を県平均を上回る。